



2022年12月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2022年4月22日

上場会社名 B-R サーティワン アイスクリーム株式会社

上場取引所 東

コード番号 2268 URL <https://www.31ice.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役会長 兼 社長 CEO (氏名) ジョン・キム

問合せ先責任者 (役職名) 専務執行役員 最高財務責任者 兼 管理本部長 (氏名) 白井 康平

TEL 03-3449-0331

四半期報告書提出予定日 2022年5月6日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年12月期第1四半期の連結業績(2022年1月1日～2022年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年12月期第1四半期	4,288		372		373		244	
2021年12月期第1四半期								

(注) 包括利益 2022年12月期第1四半期 290百万円 (%) 2021年12月期第1四半期 百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年12月期第1四半期	25.34	
2021年12月期第1四半期		

2022年12月期第1四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、2021年12月期第1四半期の数値及び対前年同四半期増減率については記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年12月期第1四半期	18,074	10,578	58.5
2021年12月期			

(参考) 自己資本 2022年12月期第1四半期 10,578百万円 2021年12月期 百万円

2022年12月期第1四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、2021年12月期の数値については記載しておりません。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年12月期		15.00		15.00	30.00
2022年12月期					
2022年12月期(予想)		15.00		15.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年12月期の連結業績予想(2022年1月1日～2022年12月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計) 通期	19,390		1,190		1,240		780		80.95

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

2022年12月期第1四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、対前期増減率は記載しておりません。

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年12月期1Q	9,644,554 株	2021年12月期	9,644,554 株
期末自己株式数	2022年12月期1Q	8,673 株	2021年12月期	8,673 株
期中平均株式数(四半期累計)	2022年12月期1Q	9,635,881 株	2021年12月期1Q	9,635,907 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社グループが入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社グループとして約束する趣旨のものはありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。なお、当社は当第1四半期決算短信提出後速やかに当社ホームページに四半期決算説明補足資料を公開する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
3. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(会計方針の変更)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間より、四半期連結財務諸表を作成しているため、前年同四半期連結累計期間及び前連結会計年度末との比較分析は行っておりません。

また、当第1四半期連結会計期間より、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を適用しております。詳細は、「3. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（会計方針の変更）」に記載のとおりであります。

（1）経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間（2022年1月～3月）における日本国内の経済環境は新型コロナウイルス感染症の影響により、企業収益や景況感の悪化、個人消費の減退やインバウンド需要消失の長期化など厳しい状況が続いております。外食業界におきましても、新型コロナウイルス感染症の影響により、人との接触機会の少ないテイクアウトやデリバリーサービスが増加するなど、消費者のライフスタイル・消費行動が激変しました。また、SNSを使ったコミュニケーションや、急速に浸透しているキャッシュレスのプロモーションが進化し、業態を越えた顧客の獲得競争が激化する中、資源価格や物流コストなどの急激な上昇、円安の進行、人件費の高騰なども懸念されています。社会全体が依然として先行きが不透明な状況が続いており、企業も長期的な視点を持ちながら変革が必要とされています。

このような環境のもと、当社グループではサーティワンアイスクリームの永遠の経営モットーである“*We make people happy.*”「アイスクリームを通じて、お客様に幸せをお届けします。」をスローガンに、全てのお客様に高品質で美味しいアイスクリームと“FUN（楽しいこと、嬉しいこと、感動すること）”に満ちたひとときを提供し、日本で最も愛され親しまれるチェーンとなることを目指すとともに、企業の継続的成長の維持と、企業価値の増大に努めています。

また、昨年より引き続き、先ずお客様や従業員の安全を第一に考えた衛生管理の徹底として工場・店舗における感染防止に取り組むとともに、当社グループの長期経営計画（ブランドパワー強化・デジタル化・スマート31・販売拠点拡大）を推進しています。

<ブランドパワー強化>

ブランドパワー強化として、バリュー・プロモーションによる集客キャンペーンから持ち帰り商品中心の訴求への方向転換を行い、他業種では出来ないサーティワンらしい新商品開発を行いました。具体的には毎月の「新作フレーバー」として専門店ならではの魅力的なアイスクリームを新発売し選ぶ楽しさを提供するとともに、お正月には「スペシャルお正月BOX9個」や「ハッピードール とら」、苺の季節に合わせた「ストロベリー&チョコレートブレイク」、など、商品ラインナップを強化いたしました。ひなまつりには「ミッキー&ミニー ひなだんかざり」を発売しました。

さらに、新たな二つの店舗デザインの「F1 (Flavor First)」、「MOMENTS」の導入による店舗イメージの刷新を進めるため、店舗改装を33店実施いたしました。

<デジタル化>

デジタル化施策としては、店頭でキャンペーンやお勧め商品を動画により発信するデジタルサイネージ導入を改装と合わせて導入しました。また、予約受付も取り入れたモバイルオーダーなど店舗のデジタル化を拡大し、コミュニケーションにおいては、530万人の会員を有する当社独自の会員制アプリ「31cLub」やSNSでの告知を強化して来店促進と売上の向上を図りました。

<スマート31>

スマート31施策として、サプライチェーン・マネジメントの最適化で原価率の低減を図り、働き方改革による組織の最適化を行っています。また、オフィスや生産工場、そして店舗でも、エネルギーの効率的な使用に努めており、2工場における食品残渣の削減、電気使用量の削減に加え、商品改廃によるプラスチック使用量の削減も図っております。

<販売拠点拡大>

販売拠点拡大には、新たな立地における出店を24店実施し、3月には持ち帰りに特化した新業態『To Go 専門店』を開店しました。また、市場環境の変化に対応する店舗戦略として、新規商業施設への出店強化を継続するとともに、立地の多様性にも着目し、大学の学生食堂や社員食堂、野球場や行楽地、水族館やサービスエリアへの出店など消費者とのタッチポイントを増やすよう積極的に取り組みました。更には、当期首より台湾全店を直営店に切り替え、米国ハワイ州にある子会社31 Aikalima LLCを連結対象にして、海外事業への挑戦をより鮮明に打ち出しております。その結果、当四半期末販売拠点数は国内海外合わせて1,248ヶ所となりました。

1月にまん延防止等重点措置が一部都府県にて再度発出され、店舗運営には厳しいスタートとなりましたが、マーケティング戦略のもと、テイクアウト需要を喚起するなどした結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は42億88百万円となりました。

売上原価は20億7百万円となり、その結果、売上総利益は22億81百万円となりました。

販売費及び一般管理費は19億8百万円となり、営業利益は3億72百万円となりました。

また、経常利益は3億73百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は2億44百万円となりました。

新型コロナウイルス感染症に関しましては、3回目のワクチン接種が始まり経済活動の早期正常化が望まれる一方で、感染力がより強い変異株の流行が広がりを見せ、人の動きを抑制する施策が依然として展開されております。

それでも、当社グループの業績に与える影響は2022年度を通して現時点では限定的であり、店舗の一時休業や営業時間短縮の対応を取りつつ営業活動への影響は軽微に留められるものと想定しております。

なお、当社グループはアイスクリーム製品の製造及び販売等を行う単一セグメントのため、セグメント情報の記載を省略しております。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における総資産は180億74百万円となりました。流動資産は89億86百万円で、その主な内訳は、現金及び預金が50億96百万円であります。固定資産は90億88百万円になり、その主な内訳は、有形固定資産55億37百万円、無形固定資産5億82百万円、投資その他の資産29億68百万円であります。

総負債は74億96百万円となりました。流動負債は50億30百万円となり、その主な内訳は、契約負債16億97百万円、未払金15億94百万円であります。固定負債は24億66百万円となり、その主な内訳は、長期預り保証金12億68百万円であります。

純資産は105億78百万円となりました。その主な内訳は、資本金7億35百万円、資本剰余金2億41百万円、利益剰余金95億46百万円であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年2月10日に公表しました「子会社の異動に伴う連結決算への移行及び2022年12月業績予想に関するお知らせ」の業績予想より変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

なお、特定子会社の異動には該当していませんが、当第1四半期連結会計期間において、重要性が増したため、31 Aikalima LLCを連結の範囲に含めております。

3. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

当第1四半期連結会計期間 (2022年3月31日)	
資産の部	
流動資産	
現金及び預金	5,096,626
売掛金	1,475,675
製品	997,983
原材料	419,527
貯蔵品	261,802
前払費用	345,420
未収入金	251,231
その他	138,216
貸倒引当金	△14
流動資産合計	8,986,470
固定資産	
有形固定資産	
建物	4,201,384
減価償却累計額	△2,145,994
建物(純額)	2,055,390
構築物	437,700
減価償却累計額	△275,545
構築物(純額)	162,154
機械及び装置	4,131,490
減価償却累計額	△3,332,456
機械及び装置(純額)	799,033
賃貸店舗用設備	4,459,754
減価償却累計額	△3,083,332
賃貸店舗用設備(純額)	1,376,422
直営店舗用設備	331,458
減価償却累計額	△77,332
直営店舗用設備(純額)	254,125
車両運搬具	68,272
減価償却累計額	△42,541
車両運搬具(純額)	25,731
工具、器具及び備品	706,016
減価償却累計額	△589,427
工具、器具及び備品(純額)	116,588
土地	695,362
建設仮勘定	52,583
有形固定資産合計	5,537,392
無形固定資産	
のれん	204,646
その他	377,708
無形固定資産合計	582,355

(単位：千円)

当第1四半期連結会計期間
(2022年3月31日)

投資その他の資産	
破産更生債権等	36,971
長期前払費用	548,149
繰延税金資産	160,140
敷金及び保証金	2,152,940
その他	92,095
貸倒引当金	△21,639
投資その他の資産合計	2,968,656
固定資産合計	9,088,404
資産合計	18,074,874

(単位：千円)

当第1四半期連結会計期間
(2022年3月31日)

負債の部	
流動負債	
買掛金	509,426
1年内返済予定の長期借入金	230,012
未払金	1,594,799
未払法人税等	138,448
未払消費税等	24,447
契約負債	1,697,799
預り金	452,940
賞与引当金	130,550
役員賞与引当金	7,500
その他	244,709
流動負債合計	5,030,634
固定負債	
長期借入金	916,591
退職給付に係る負債	96,851
役員退職慰労引当金	54,275
資産除去債務	129,888
長期預り保証金	1,268,563
固定負債合計	2,466,169
負債合計	7,496,803
純資産の部	
株主資本	
資本金	735,286
資本剰余金	241,079
利益剰余金	9,546,337
自己株式	△17,341
株主資本合計	10,505,360
その他の包括利益累計額	
その他有価証券評価差額金	△5,799
繰延ヘッジ損益	13,186
為替換算調整勘定	65,323
その他の包括利益累計額合計	72,710
純資産合計	10,578,071
負債純資産合計	18,074,874

(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	当第1四半期連結累計期間 (自2022年1月1日 至2022年3月31日)
売上高	4,288,952
売上原価	2,007,658
売上総利益	2,281,294
販売費及び一般管理費	1,908,832
営業利益	372,461
営業外収益	
受取利息	311
為替差益	5,167
その他	3,485
営業外収益合計	8,963
営業外費用	
支払利息	2,773
店舗設備除去損	5,038
その他	3
営業外費用合計	7,816
経常利益	373,609
特別利益	
固定資産売却益	76
特別利益合計	76
特別損失	
固定資産廃棄損	3,650
特別損失合計	3,650
税金等調整前四半期純利益	370,035
法人税、住民税及び事業税	125,849
四半期純利益	244,185
(内訳)	
親会社株主に帰属する四半期純利益	244,185
非支配株主に帰属する四半期純利益	-
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	578
繰延ヘッジ損益	12,031
為替換算調整勘定	33,533
その他の包括利益合計	46,144
四半期包括利益	290,330
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	290,330
非支配株主に係る四半期包括利益	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財またはサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財またはサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。収益認識会計基準等の適用による主な変更点は以下のとおりです。

(1) 顧客に支払われる対価

従来、販売費及び一般管理費に計上しておりました顧客に支払われる対価のうち、顧客から受領する別個の財又はサービスと交換に支払われるものである場合を除き、売上高から減額する方法に変更しております。

(2) 自社発行ギフト券

当社が発行するアイスクリームギフト券の未使用分について、従来は一定期間経過後に収益に計上するとともに、将来の使用に備えるため、前受金を計上しておりましたが、当社が将来において権利を得ると見込む金額について、ギフト券の使用パターンと比例的に収益を認識する方法に変更し、契約負債として処理しております。

(3) 店舗用什器売却取引

当社が仕入を行い、フランチャイジーに販売する店舗用什器について、従来、店舗用什器売却益として営業外収益に計上しておりましたが、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、店舗用什器販売価格の総額を売上高に、原価を売上原価に計上する方法に変更しました。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、当第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、当第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は176,269千円減少し、売上原価は86,669千円増加し、販売費及び一般管理費は302,759千円減少しております。営業利益は39,820千円増加し、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ19,277千円増加しております。また、契約負債に相当する流動負債(前受金)は275,320千円減少し、利益剰余金の当期首残高は154,344千円増加しております。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下、「時価算定会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項および、「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。